『北根室ランチウェイ』

中標津支店　　播磨忠好

はじめに

平成 30 年 7 月 16 日(月)朝、幸田社長より、「8 月 12 日(日) に『北根室ﾗﾝﾁｳｪｲ』を歩きたいので、空港→開陽台と養老牛→ホテルの車での送迎を頼みたい。」との連絡がありました。

私は快く承諾致しました。しかし、数日後、社長より、「熊が頻繁に出ると聞いたから、一緒に歩こう！」との御誘いを受け、約 20ｋｍの道程を考慮すると、運動不足の私の体力では無理です、と一度は断ったものの、先日の株主総会後の役員会にて、会社と社長に忠誠を誓った手前、頑なに断る事が出来ず、覚悟を決めて御供させて頂く事にしました。

北根室ランチウェイ

「北根室ﾗﾝﾁｳｪｲ」とは、広大な牧場地帯を通る全長 71.4ｋｍのﾛﾝｸﾞﾄﾚｲﾙの事を言います。

６つのｽﾃｰｼﾞに分かれており、以下の様になっております。

第１ステージ～中標津町交通センター⇔開陽台　（14.7ｋｍ）

第２ステージ～開陽台⇔レストラン牧舎　（9.9ｋｍ）

第３ステージ～レストラン牧舎⇔養老牛温泉　（8.9ｋｍ）

第４ステージ～養老牛温泉⇔西別岳山小屋　（17.4ｋｍ）

第５ステージ～西別岳山小屋⇔摩周湖第一展望台　（13.9ｋｍ）

第６ステージ～摩周湖第一展望台⇔弟子屈町 JR 美留和駅　（6.6ｋｍ）

今回、社長と私は、「北根室ﾗﾝﾁｳｪｲ」の名前の由来でありますﾗﾝﾁ（RANCH＝大牧場）、酪農地帯の第２・第３ステージを歩くコースを選択しました。

第２ステージ

平成 30 年 8 月 12 日午前 9 時、私は藤本主任の私有車にて、幸田社長を御迎えに中標津空港へ向かいました。

一昨日まで北上していた台風１３号も温帯低気圧に変わり、久しぶりの晴れ間となり心地良い風が吹く、絶好のトレッキング日和となりました。

空港で御迎えした社長の姿は、正にトレッキング者の出立で、私なんかとは、比較にならないベテランの風格を兼ね備えてました。いつ何時でも、緊急事態があった際は、飛んで来る様に、藤本主任に伝え、いざ、スタート地点の開陽台を出発！

最初の難関である、開陽台の下り坂からﾏﾝﾊﾟｽ(※参照)を通過しての町営牧場の上り坂を、社長は足の小指の「魚の目」の痛みを我慢しての歩行。私は、こんな道が約 20km も続いて大丈夫だろうか？と不安な気持ちでの歩行。急な坂を登り切った所で、最初の給水ﾀｲﾑ。社長から頂いた「森永ﾐﾙｸｷｬﾗﾒﾙ」を食しながら、雄大な眺めを堪能。休憩後、持参した熊除けの鈴を鳴らし、社長から、「本当に出るのか?」と何度も聞かれながら、事前に近所の農家さんから聞いた出没情報を裏付けに「出ます!」とのやり取りを繰り返し歩いて行くと、道中、4～5 か所に熊除けの鐘が設置されてあり、いよいよ信憑性が高まって来ました。

数十分後、開けた牧草地に到達し、2 回目の休憩。地べたに座ると汚れる事から、社長が長年愛用しているｼｰﾄをﾘｭｯｸから取り出し、座らせて頂きました。

その後、牛舎建設により危険な為、変更となった舗装道路のコースを約 2km ほど歩き、再び茂みの中へ。ﾊﾟﾅｸｼｭﾍﾞﾂ川の飛び石橋で川を渡り、M牧場（当社ﾕｰｻﾞｰ：当日、法事の為、不在）に到着。敷地内のＭさん御手製のﾏﾝﾊﾟｽを通過し、放牧地へ足を踏み入れると、牧草が踏み倒された跡があり、初めて私達以外の方の足取りを発見！(ここまでの道中、牛は見かけましたが、人とは会ってません(笑))

もしかしたら、歩いている人と会えるのでは？と期待しながら進みましたが、やはり、遭遇したのは、O牧場の放牧地にいる牛達・・・。放牧地の為、落ちている糞もいっぱい。事前に私有車で迎えに来てくれる藤本主任から、「牛の糞だけは踏まないで下さい・・・。」と言われた事を思い出しながら歩みを進め、漸く、第２ｽﾃｰｼﾞのｺﾞｰﾙ「ﾚｽﾄﾗﾝ牧舎」到着。

「さあ、昼食！」と思ったところで、ﾚｽﾄﾗﾝは満席の 1 時間待ち(涙)。緊急事態発生により、藤本主任に、弁当とｶｯﾌﾟﾇｰﾄﾞﾙ(社長の御希望)の配送を依頼！20 分後、藤本主任登場！（ｶｯﾌﾟﾇｰﾄﾞﾙは、ほぼ汁無)

充填完了により、第 3 ｽﾃｰｼﾞへ！

第３ステージ

Ｔ牧場（当社ﾕｰｻﾞｰ）→Ｋ牧場(当社ﾕｰｻﾞｰ)→Ｙ牧場(当社ﾕｰｻﾞｰ）に到着。敷地内を通過しようとしたところ、偶然、Ｙさんのお父さんに御会いし、社長と一緒に御挨拶をしたところ、「丁度良かった、炭ｶﾙ１袋を頼みたかったんだ。」との事で、馬小屋で商品を確認して１袋受注。

「御盆前に頼むよ。」と言われましたが、既に御盆期間に突入している為、明後日迄に私が御届けする事を約束。（その後、Ｙさんにも御挨拶）しかし、この後、放牧地を抜けた林道入り口の延長線上に黒い物体が！社長の「熊かっ!?」の言葉。「社長、でも動いてません！」と私。慎重に近づくと、木が折れているだけでした(笑)。それから、ﾏｽ川の鉄の橋を通過し、ｱｯﾌﾟﾀﾞｳﾝのある林道内に設置された熊除けのｼﾝﾊﾞﾙを鳴らしながら熊川を越えると、開けた平坦な林道に出ました。ここからが苦行の始まりでした。

2m 幅の砂利道が果てしなく延々と続き、道中、無数のﾒｸﾗｱﾌﾞ（ｱﾌﾞ科）の襲撃を受けて流血し、2ｍにも及ぶ蜘蛛の巣が顔や手に引っ掛かり、襲われる危険から休憩する事も出来ず、ただひたすら延々と続く道を歩き続けました。
道中、私は股関節に激痛が走り、棄権する事を何度も考えましたが、社長は一向に、その様な気配も無く、黙々と歩みを進めている事から、私の心の中からも「棄権」の文字は消えて行きました。確かにﾍﾙﾌﾟを求めても、今居る場所を説明する事が出来なかった為、無理な望みでもありました。2 km程歩いた所で、漸く舗装道路が見え始め、後半初めての休憩。

「さあ、気を取り直してこれから！」と歩き始めた矢先に、今度は社長の前にｶﾗｽ蛇が出現！ﾄﾚｲﾙの歩行を断念し、並行している舗装道路を歩いて、養老牛温泉を目指す事としました。ただ、舗装道路の歩行は、傷んでいる身体に止めを刺す最後の試練でした。舗装道路を 2.7km 歩いた後、第3ｽﾃｰｼﾞのｺﾞｰﾙとなる養老牛温泉「憩いの広場」が見えて来ました。ﾀｲﾐﾝｸﾞ良く、御迎えの車（藤本主任の私有車）も到着し、「北根室ﾗﾝﾁｳｪｲ」完走の目標達成となりました。

あとがき

今回のﾄﾚｲﾙは「北根室ﾗﾝﾁｳｪｲ」の一部分に過ぎませんが、非常に歩き応えのある、厳しい道程だった様に思えます。道中、社長より、「哲学の道」と言う言葉を何度も聞きましたが、京都にある「哲学の道」と同様に、ある意味、私共、農業に携わっている者達にとっては、「北根室ﾗﾝﾁｳｪｲ」こそが「哲学の道」ではないだろうかと感じました。社長も仰っておりましたが、北海道農業に関わる企業として、是非、役員の方々にも歩いて頂きたいと思います。残念ながら、来年で十数年続いた「北根室ﾗﾝﾁｳｪｲ」は周囲の理解を得られなくなったとの理由で、廃止となってしまいますが、もし機会が有れば、違うｽﾃｰｼﾞも歩いてみたいと感じた次第です。平成最後の夏、この様な貴重な経験を与えて頂きました幸田社長には、この場をお借りして感謝申し上げます。又、藤本主任を始めとして、御協力頂いた方々にも感謝申し上げます。

最後に一言、「やはり、㈱丹波屋の社長は鉄人でした・・・。」

※おまけ～全ﾍﾟｰｼﾞ内の数字（日付・時・距離を除く）を足すと
当社創立してからの年と同じ数になっています。